

U.S.  
MEDIUM  
TANK

# M4A3E8 SHERMAN "EASY EIGHT" KOREAN WAR

アメリカ戦車 M4A3E8 シャーマン イージーエイト (朝鮮戦争)



解説：斎木 伸生

## ■シャーマン戦車の開発と発展

アメリカ軍のM4シャーマン戦車と言えば、第二次世界大戦で連合軍を支えた主力戦車として有名ですが、第二次世界大戦前のアメリカは、意外なことに戦車の開発に極めて冷淡でした。しかし、緒戦でドイツ軍による電撃戦の威力を目のあたりにし、大急ぎで新型戦車の開発に取り組むこととなります。このとき新型戦車には75mmクラスの主砲の搭載が必須と考えられましたが、当時のアメリカ戦車はまだ37mm砲しか搭載しておらず、これよりはるかに巨大な新型砲塔の開発には時間がかかりました。

このため、75mm砲の砲塔への搭載は断念され、つなぎ役として1939年夏に採用されたM2中戦車の車体に75mm砲を装備したM3中戦車が開発されたのです。M3は1941年4月に量産が開始されましたが、もとより暫定的な戦車であり、並行して本命というべき新型戦車の開発が急ピッチで進められました。この車輛は開発期間を短縮するため、車体下部、エンジン、動力伝達装置、サスペンション等には、M3を流用。そこに新型の上部車体と、75mm砲を装備した大型の旋回砲塔が搭載されました。

試作車輛は1941年9月に完成し、10月にはM4中戦車として制式化されました。先行生産型の製作は1941年11月に開始され、早くも1942年2月には量産型の生産がスタートしたのです。M4で特徴的なのは、最初からいくつかのバリエーションが存在していたことでした。これは基本的な仕様を踏まえた上で、必要とされる戦車をできるだけ大量に生産しようという考え方でした。最初に生産されたのは、鋳造車体のM4A1で、鋼板溶接車体のM4がそれと並行して生産。このM4とM4A1は航空機用を転用したR975星型空冷ガソリンエンジンを搭載していました。

これに続き主にエンジンが異なるバリエーションとして、溶接車体にゼネラルモーターズ製6046液冷ディーゼルエンジンを組み合わせたM4A2、溶接車体・フォードGAA液冷ガソリンエンジンのM4A3、溶接車体・クライスラー・マルチバンク液冷ガソリンエンジンのM4A4などが生産されました。これらに加えてM4戦車には、生産途中で改良も加えられています。鋳造車体、溶接車体ともに、主に車体前部のデザインが変更されました。砲塔についても防盾回りやハッチ等が順次変更されていました。なおM4はシャーマンという

愛称で知られていますが、これは後にイギリス軍が名付けたものです。

## ■76mm砲搭載型シャーマンからM4A3E8へ

M4は攻撃力、防御力、機動力のバランスがとれ、信頼性の高い優秀な戦車でした。しかし、問題は武装にありました。装備された75mm砲は中砲身というべき砲で、装甲貫徹力に劣るきらいがあったのです。対戦相手であるドイツ戦車の装甲の強化を考えると、早晚威力不足となるのは明らかでした。このため兵器局ではすでに1942年初めから、新型戦車砲の開発に着手していたのです。これはM10駆逐戦車などに搭載された3インチ（76.2mm）砲を小型軽量化したもので、シャーマンに搭載するため砲身もわずかに短縮されていました。

しかしシャーマンの砲塔は小型すぎ、そのままでは搭載が困難でした。このため砲塔そのものに、シャーマンの後継として開発されていたT23試作中戦車のものを流用。従来の75mm砲は通常の被帽徹甲弾を使用して、距離914mで厚さ60mm（傾斜角30度）の装甲板を貫徹できたのに対し、この76mm砲では同様の条件で厚さ88mmの装甲を貫徹可能。また高速徹甲弾を使用すれば更に厚さ135mmの装甲板を貫徹できたのです。

76mm砲搭載型シャーマンは1943年末に生産が開始され、M4A1、M4A2、そしてM4A3の3タイプが生産されました。もっとも当初アメリカ軍はその必要性に懐疑的でした。その榴弾の威力が75mm砲より劣ることが問題となったのです。それが早急に必要と認識されたのは、ノルマンディで実際に強力なドイツ戦車と戦った後のことでした。

こうして車体と武装の改良が進められましたが、シャーマンにはもうひとつの弱点がありました。それは機動力でした。シャーマンの機動力は決して悪いものではありませんでしたが、幅16.5インチ（42cm）と比較的狭い履帯と垂直渦巻きバネ懸架装置（VVSS）は泥濘地等では機能を十分発揮できなかったのです。これは特に重量が増加した76mm砲搭載型にとっては、大きな問題でした。

クライスラー社では1942年末から接地圧軽減のため、いくつもの対策に取り組み、1944年8月から23インチ（58.4cm）幅の新型履帯の生産が開始されました。この履帯を使用するために採用されたのが、新型の水平渦巻きバ



ネ懸架装置（HVSS）でした。HVSSは、前後2つの転輪を楕に配置した渦巻きバネで支えるもので、ダブル転輪により履帯幅を広く取ることができました。履帯には、当初鋼製シングルピンのT66、後に鋼製ダブルピンのT80、ゴム被覆ダブルピンのT84が使用されました。

HVSS型は、当初23インチ幅履帯付きM4A3（76mm砲）と呼ばれていましたが、これでは繁雑なため、1945年の存には型式名称からM4A3E8と呼ばれるようになりました。本来この中には105mm砲装備型も含まれますが、一般には76mm砲装備型の呼称として扱われています。なおE8にちなんでイージーエイトと呼ぶ愛称は、戦後になって一般的になったものようです。

HVSS型の生産は、1944年3月第一次分としてM4A3をベースに500輛が発注されました。最初の量産車輛は1944年8月に完成し、11月から部隊への引き渡しが始まりました。生産数は1944年中が1,445輛、1945年4月までに1,172輛の合計2,617輛となっています（105mm砲搭載型を除く）。なおHVSS型は、その後M4、M4A1、M4A2各タイプを生産も開始されていますが、M4A3の生産数が最も多くなっています。

#### ■第二次大戦中の戦歴

1944年11月、M4A3E8を最初に引き渡された部隊は、第8機甲師団でした。同師団にはヨーロッパへの出発前に41輛が引き渡されましたが、翌年1月半ばまで実戦には投入されませんでした。この間1944年12月4日には、補充用として109輛のM4A3E8が送られましたが、こちらが代わって最初に実戦で使用されることになりました。

それは12月22日にパットン将軍の第3軍に引き渡された21輛で、そのほとんどが第4機甲師団に配備されて、いわゆるバルジの戦いのバスターニェ解圍戦に参加しました。

その後、M4A3E8はブラッドレー将軍隷下の第12軍集団の4個軍に補充として配属されたことが知られています。その数は合計752輛でした。その他イタリア戦線には、戦争終結直前に少数が到着。M4A3E8はヨーロッパ戦線での連合軍の勝利に貢献したのです。

#### ■朝鮮戦争でのイージーエイト

第二次世界大戦の戦火が止んだと思う間もなく、世界はアメリカを中心とする自由主義陣営と、ソ連に支配された共産主義陣営との冷戦に突入しました。1950年6月に北朝鮮が突然韓国に軍事侵攻したことで、朝鮮戦争が勃発したのです。当時アメリカ軍は戦後の急速な動員解除により、多くの装備がスクラップとなり、部隊へ配備する戦車にも事欠く状態でした。

なんとフォート・ノックスの戦車兵学校は、その訓練部隊の第70戦車大隊に、2個中隊分のM4A3E8を調達できただけと言われています。朝鮮半島に出動した日米軍においても状況は同じで、アメリカ第8軍は第8072中戦車大隊（後に第89に変更）を編成するため、54輛のM4A3E8を中古車輛から再整備したのです。この大隊の最初の中隊は、7月末に

朝鮮に到着し8月2日には戦線に投入されました。

1950年末には朝鮮半島のアメリカ軍は、1,326輛の戦車を保有するようになり、そのうち679輛がM4A3E8でした。南進する北朝鮮戦車部隊との最大の戦車戦は、1950年の8月から10月にかけて展開されましたが、そこで北朝鮮軍のT34/85を迎え撃ったのは、これら急ぎ投入されたM4A3E8だったのです。このときM4A3E8は戦車兵の練度に優れていたこと、豊富にストックされていた高速徹甲弾の使用により、有利に戦うことができたのです。11月以降戦車戦の機会はほとんどなくなり、M4A3E8はもっぱら火力支援の任務にあたることになりました。このような戦いでは、戦車兵にとっては重装甲な一方で機動力の劣るM26より、M4A3E8が好まれたとも言われます。なお朝鮮戦争に投入されたM4A3E8は、車体の左側面にファーストエイドキット収納ボックス、後部右側にインターホンボックスを装備した車輛も見られました。

1951年2月の漢江沿いの戦いでは、いくつかのアメリカ軍戦車大隊で、その前面に猛々しい虎の絵などを描いていました。これは一種の心理作戦で、迷信深い中国歩兵に恐怖心を与えようというものでした。第70戦車大隊のシンプルなタイガーフェイス、第64戦車大隊の虎のイラストなどは穏やかなものでしたが、第24歩兵師団を支援した戦車部隊などは、まさに戦車そのものが恐ろしい虎にも見える力作も見られました。朝鮮戦争最長の戦歴を誇った第89戦車大隊では、黄色のまだらの上に大きな口と目が描かれた車輛も見られ、特に中隊長のC.ライス大尉にちなんで部隊名を持つ「ライズ・レッド・デビルズ」隊では真赤な下地に迫力ある「悪魔」の顔が描かれていました。

第二次世界大戦中のチャーマン戦車の集大成といえるM4A3E8は、山がちな朝鮮半島の戦場でも、高速徹甲弾による攻撃力と優れた機動力、そして高い信頼性や整備性を活かして大きな働きを見せました。

#### 《M4A3E8 シャーマン 諸元》

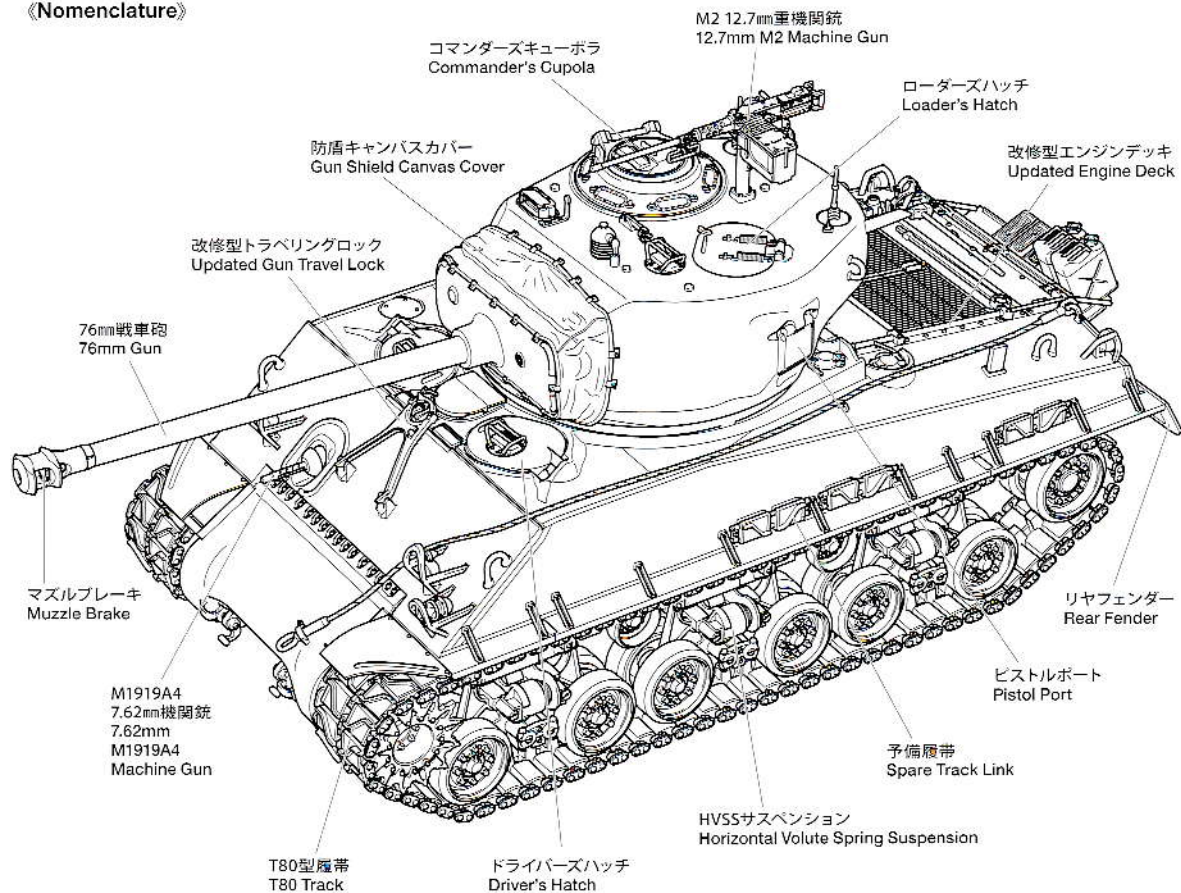
- 全長：7,543.8mm
- 全幅：2,997.2mm
- 全高：2,971.8mm
- 戦闘重量：33.657トン
- 乗員：5名
- エンジン：フォード GAA 4ストロークV型8気筒液冷ガソリンエンジン
- 出力：500馬力/2,600回転
- 最大速度：41.8km/h
- 航続距離：161km（路上）
- 武装：76mm戦車砲（M1A1またはM1A2にマズルブレーキ装着）、12.7mm M2重機関銃×1、7.62mm M1919A4機関銃×2
- 弾薬搭載数：71発
- 装甲厚：[車体] 前面上部63.5mm、前面下部107.95～50.8mm、側面38.1mm、後面38.1mm、  
[砲塔] 防盾88.9mm、前面63.5mm、側面63.5mm、後面63.5mm



Photo: courtesy of David Doyle



《各部名称》  
《Nomenclature》



### ■ Playing Catch-Up

U.S. armor had a key role to play in the Allied war effort during WWII, notably in the form of the M4 Sherman tank. Its roots go back to the early stages of the conflict, when German success prompted the U.S. to develop the 75mm gun-equipped M3 as a stopgap counter-measure.

Even as the M3 tank was being produced, a new longer term solution was under design. It used the M3 suspension, lower hull and transmission, with a new upper hull and fully rotating turret for the 75mm gun, and was fast-tracked from prototype (September 1941) to official designation as the M4 (the Sherman nickname was later given by the British military) in October 1941 and mass production from February 1942. First produced was the cast hull M4A1 variant, joined by the M4 with welded hull. Both used the R975 radial gasoline engine. More welded hull Shermans followed, with different powerplants: the M4A2 had a General Motors 6046 diesel; the M4A3 sported a Ford GAA gasoline engine; and the M4A4 had a Chrysler multibank gasoline unit.

### ■ From the 76mm Gun to an Easy Rider

Despite the M4's excellent mobility, reliability, offensive power and survivability, there remained one cloud on the horizon; constant improvements to German armor would in all likelihood outstrip the potential of the 75mm gun. Thus, some later Shermans were upgunned, with a new 76mm weapon and larger turret to accommodate it. A shortened and lightened version of the 3-inch (76.2mm) gun from the M10 tank destroyer, at 914 meters it could penetrate 88mm of 30-degree armor (135mm using high velocity rounds), compared to the 60mm limit of the 75mm gun.

Despite some skepticism as to the necessity, 76mm turret M4A1, M4A2 and M4A3 Shermans were manufactured from late 1943, and meeting German armor after the June 1944 Normandy landings soon washed away any such doubts.

Heavier armament came at a price, though, as the Sherman's 16.5-inch (42cm) tracks struggled with the weightier turret in muddy conditions. This was combated by installing wider 23-inch (58.4cm) tracks with horizontal volute spring suspension (HVSS) in place of the hitherto-used vertical (VVSS) setup. Placing the volute spring in each bogie horizontally allowed dual road wheels and the use of wider tracks: first, the single-pin T66 type and later the double-pin T80 steel and T84 rubber-covered tracks. 500 HVSS-equipped M4A3 tanks were produced between March and

August 1944, and delivered from that November, a figure rising to 2,617 by April 1945. They came to be known as the M4A3E8, and more commonly the "Easy Eight" thanks to the smooth HVSS.

### ■ From WWII to the Korean War

The Sherman is famed for its contribution to the Allied effort in WWII, and the Easy Eight also saw action in the conflict, delivered to units from November 1944 and contributing from the Battle of the Bulge that December through to the end of fighting in Europe.

When conflict flared again in June 1950, this time on the Korean peninsula, the U.S. was caught relatively underprepared as its rapid post-WWII demobilization had included the scrapping of significant amounts of materiel. One course of action taken was to refurbish 54 Easy Eights and supply them to the 89th Tank Battalion (at first known as the 8072nd), which was thrown into fighting on August 2nd. By the end of 1950, 679 of 1,326 U.S. tanks on the peninsula were Easy Eights, which fought with T34/85 tanks of the Korean People's Army from the invading North, and later were often used in a supporting fire role.

During fighting along the Han river in February 1951, some U.S. tanks were seen with painted tiger motifs. Designs varied from the simple to the terrifying, such as an 89th Tank Battalion Easy Eight with a tiger's eyes and maw on a mottled yellow camouflage base, or that belonging to the Rice's Red Devils company, featuring distinctive red-based artwork.

Popular with crews thanks to its easy ride, the Easy Eight not only contributed to Allied success in WWII, but performed with distinction when called upon again in the Korean War.

### ■ M4A3E8 Specifications

- Length: 7,543.8mm ●Width: 2,997.2mm
- Height: 2,971.8mm ●Crew: 5
- Fully-Loaded Weight: 33,657 tons
- Engine: Ford GAA 4-stroke V8 liquid-cooled gasoline engine
- Maximum Output: 500hp (at 2,600rpm)
- Maximum Speed: 41.8km/h ●Range: 161km (road surfaces)
- Armament: 76mm M1A1C/M1A2 tank gun (with muzzle brake) x1 & 71 rounds, M2 12.7mm heavy machine gun x1, M1919A4 7.62mm machine gun x2
- Armor: 63.5mm (upper glacis), 50.8-107.95mm (lower glacis), 38.1mm (hull sides, rear), 88.9mm (mantlet), 63.5mm (turret front, rear, sides)



## ■ Verfolgungsjagd

Die US Panzer spielten eine wichtige Rolle in den Bemühungen der Alliierten im II. Weltkrieg, besonders herausgehoben durch den M4 Sherman Panzer. Seine Wurzeln reichen zurück in die ersten Kriegstage, als der deutsche Erfolg die Amerikaner zwang, einen M3 mit 75mm Kanone als Lückenfüller zu entwickeln.

Schon während der Produktion des M3 war eine Langzeitlösung in der Entwicklung. Sie nutzte die Radaufhängung des M3, die Unterwanne und das Getriebe zusammen mit einer neuen Oberwanne und einem Drehturm für die 75mm Kanone. Die Entwicklung wurde beschleunigt vom Prototypen (September 1941) zur offiziellen Einführung als M4 (der Name Sherman kam später von den Briten) im Oktober 1941 zur Massenproduktion im Februar 1942. Zuerst wurde die M4A1 Gusswanne gefertigt, gefolgt von der geschweißten Wanne. Beide benutzten den R975 Sternmotor. Mehr Sherman mit geschweißter Wanne folgten mit unterschiedlichen Motoren; der M4A2 hatte den General Motors 6046 Diesel, der M4A3 hatte den Ford GAA Benzinmotor und der M4A4 hatte den Chrysler Multibank Motor.

## ■ Von der 76mm Kanone zum "Easy Rider"

Ungeachtet der exzellenten Mobilität des M4, seiner Zuverlässigkeit, seiner Offensivkraft und seiner Überlebensfähigkeit blieb eine dunkle Wolke am Horizont: die ständigen Verbesserungen der deutschen Panzer drohten das Potential der 75mm Kanone zu überbieten. Daher wurden spätere Sherman mit einer verbesserten 76mm Kanone ausgerüstet und erhielten einen größeren Turm, um sich aufzunehmen. Eine verkürzte und erleichterte Version der 3-inch (76,2mm) Kanone des M10 Jagdpanzers konnte bei 914mm noch 88mm Panzerung im Winkel von 30 Grad durchdringen (135mm mit Hochgeschwindigkeitsmunition) im Vergleich zu den 60mm der 75mm Kanone.

Trotz einiger Zweifel an der Notwendigkeit wurden die 76mm Türme für die M4A1, M4A2 und M4A3 ab Ende des Jahres 1943 gefertigt. Als sie 1944 nach der Landung in der Normandie auf die deutschen Panzer trafen, waren alle Zweifel vergessen.

Doch die schwerere Bewaffnung forderte ihren Tribut: die 16,5inch (42cm) Ketten kämpften im Matsch mit dem hohen Tummgewicht. Dagegen kämpfte man an mit 23 inch (58,4cm) Ketten mit der (HVSS) Aufhängung anstelle der alten (VVSS) Aufhängung. Durch die horizontale Anbringung der Feder konnte man doppelte Laufrollen für breitere Ketten verwenden: zuerst den Typ 66 mit einem Bolzen und später die T80 aus Stahl mit doppelten Kettenbolzen und die T84 mit Gummipolstern.

## ■ Rattraper le Temps Perdu

Les blindés américains constituent une part importante de l'effort de guerre allié durant la 2<sup>ème</sup> G.M., notamment sous la forme du tank M4 Sherman. Ses origines remontent au tout début du conflit, lorsque les victoires allemandes amenèrent les Etats Unis à développer le M3 équipé d'un canon de 75mm comme solution d'urgence.

Pendant la production du M3, une nouvelle solution à long terme était à l'étude. Ce tank utilisait la suspension, la caisse inférieure et la transmission du M3 avec une nouvelle caisse supérieure et une tourelle entièrement rotative pour le canon de 75mm. Très rapidement, le prototype (septembre 1941) reçut la désignation officielle de M4 en octobre 1941 (le surnom de Sherman donné par les britanniques apparut plus tard) et la production en série débuta en février 1942. La première version produite fut le M4A1 à caisse moulée, suivi du M4 à caisse soudée. Tous deux étaient équipés du moteur à essence radial R975. D'autres Sherman à caisse soudée suivirent, avec différents moteurs : le M4A2 avec un General Motors 6046 diesel ; le M4A3 avec un Ford GAA essence et le M4A4 avec un Chrysler essence multi-bancs.

## ■ Du Canon de 76mm au Easy Rider

Malgré la mobilité, la fiabilité, la robustesse et la puissance offensive du M4, des nuages pointaient à l'horizon ; les améliorations constantes des blindés allemands allaient limiter l'efficacité du canon de 75mm. En conséquence, certains Sherman tardifs furent surarmés, avec un nouveau canon de 76mm dans une tourelle agrandie. Il s'agissait d'une version raccourcie et allégée du canon de 3-inch (76,2mm) du chasseur de chars M10. A 914mm, il pouvait pénétrer 88mm de blindage incliné à 30°, comparé au canon de 75mm limité à 60mm. Malgré un certain scepticisme quant à leur utilité, des M4A1, M4A2 et M4A3 Sherman à tourelle de 76mm furent produits à partir de fin 1943. La rencontre avec les Panther et Tiger I après le Débarquement de Normandie de juin 1944 leva tous les doutes.

Dependant avec cette tourelle alourdie, les chenilles de 16,5-inch (42cm) étaient peu efficaces en terrain boueux. On y remédia en installant de chenilles de 23-inch (58,4cm) et des suspensions avec ressorts spirales horizontaux (HVSS) à la place de l'arrangement vertical (VVSS). Le ressort spiralé placé à l'horizontale de chaque bogie permettait l'adoption de roues de route jumelées et l'utilisation de chenilles plus larges, en premier le type T66 à connecteur unique puis le type T80 à connecteur double et le type T84 à revêtement caoutchouc. 500 M4A3 à suspension HVSS

Zwischen März und August 1944 wurden 500 M4A3 mit HVSS Laufwerk produziert und ab November ausgeliefert. Diese Zahl stieg auf 2.617 bis April 1945. Sie wurden bekannt als M4A3E8 oder gebräuchlicher als "Easy Eight", wegen der sanften Radaufhängung.

## ■ Vom WK II zum Koreakrieg

Der Sherman wurde berühmt für seinen Beitrag zum alliierten Erfolg im II Weltkrieg und wurde auch eingesetzt ab November 1944, sowie bei der Ardennenoffensive im Dezember bis zum Kriegsende in Europa. Als der Krieg erneut aufflackerte, diesmal 1950 auf der koreanischen Halbinsel, wurden die Amerikaner relativ unvorbereitet erwischt, da die Demobilisierung nach dem Kriegsende die Zerstörung von wertvollem Material zur Folge hatte. Eine sofortige Aktion war die Präparation von 54 Easy Eights und ihre Auslieferung an das Panzerbataillon 89 (zuerst bekannt als das 8072nd), das ab 2. August in die Schlacht geworfen wurde. Zum Jahresende 1950 waren 679 von 1.326 US Panzern auf der Halbinsel Easy Eights, die gegen die T34/85 der von Norden angreifenden Volksarmee der Koreaner kämpften. Später wurden sie noch oft in der Feuerunterstützung genutzt. Während der Kämpfe am Han-River im Februar 1951 wurden einige Panzer mit aufgemalten Tigermotiven beobachtet. Deren Design variierte von Einfachen bis zu Furchteinflößenden wie beim 89ten Panzerbataillon mit Tigeraugen und einem Maul auf einer gelben, fleckigen Tarnung, oder die bei der Teufelskompanie von Rice, die eine kunstvolle Lackierung auf rotem Grund trugen.

Beliebt bei den Besatzungen wegen der guten Fahrbarkeit trugen die M4 Easy Eight nicht nur zum Sieg im II. Weltkrieg bei, sie leisteten auch vieles als sie in den Koreakrieg gerufen wurden.

## ■ M4A3E8 Technische Daten

- Länge: 7.543,8mm
- Breite: 2.997,2mm
- Höhe: 2.971,8mm
- Gefechtsgewicht: 33,657t
- Besatzung: 5
- Motor: Ford GAA 4-Takt V8 mit Flüssigkeitskühlung
- Höchstleistung: 500hp (2.600rpm)
- Höchstgeschwindigkeit: 41,8km/h
- Fahrbereich: 161km (auf Strasse)
- Bewaffnung: 76mm M1A1C/M1A2 Panzerkanone (mit Mündungsbremse) x1 & 71 Schuss, M2 12,7mm schweres Maschinengewehr x1, M1919A4 7,62mm Maschinengewehr x2
- Panzerung: 63,5mm (Oberwanne), 50,8-107,95mm (Unterwanne), 38,1mm (Seite, hinten), 88,9mm (Blende), 63,5mm (Turm vorne, hinten, seitlich)

furent produits entre mars et août 1944 et livrés à partir de novembre, leur nombre passant à 2.617 en avril 1945. Ils étaient désignés M4A3E8, et plus communément surnommés "Easy Eight" du fait la souplesse de la suspension HVSS.

## ■ De la 2<sup>ème</sup> G.M. à la Guerre de Corée

Le Sherman est célèbre pour sa contribution à la victoire alliée dans la 2<sup>ème</sup> G.M., et le Easy Eight y participa, déployé en unités à partir de novembre 1944 et utilisé au combat de la Bataille des Ardennes en décembre suivant jusqu'à la fin des hostilités en Europe.

Lorsqu'un conflit éclata à nouveau en juin 1950, cette fois dans la péninsule de Corée, les Etats-Unis étaient relativement impréparés, la démobilisation rapide après la 2<sup>ème</sup> G.M. s'étant accompagnée de la destruction massive de matériels. Une des mesures d'urgence fut la remise en état de 54 Easy Eight fournis au 89th Tank Battalion (auparavant désigné 8072nd), qui partit au combat le 2 août. A la fin de 1950, 679 des 1.326 tanks U.S. présents sur la péninsule étaient des Easy Eight qui combattirent les T34/85 de l'Armée Populaire Coréenne de l'invasisseur nord-coréen. Par la suite, ils furent souvent utilisés pour l'appui-feu.

Durant les combats le long du fleuve Han en février 1951, certains tanks U.S. arboraient des représentations de tigre. Le style allait du simpliste au terrifiant, comme vu sur un Easy Eight du 89th Tank Battalion avec des yeux et une gucule de tigre sur un camouflagé tacheté de jaune, ou sur celui de la Compagnie des Rice's Red Devils avec ses décorations à base rouge.

Populaire auprès de ses équipages du fait de sa souplesse de suspension, le Easy Eight n'a pas seulement contribué à la victoire alliée en 1945 mais il s'est aussi brillamment comporté durant la Guerre de Corée.

## ■ Caractéristiques du M4A3E8

- Longueur: 7.543,8mm
- Largeur: 2.997,2mm
- Hauteur: 2.971,8mm
- Equipage: 5
- Poids en Ordre de Combat: 33,657 tonnes
- Moteur: V8 Ford GAA 4 temps à essence refroidi par liquide
- Puissance maxi: 500cv (à 2.600tr/min.)
- Vitesse maximale: 41,8km/h
- Autonomie: 161km (sur route)
- Armement: Canon de 76mm M1A1C/M1A2 (avec frein de bouche) x1 & 71 obus, mitrailleuse lourde M2 12,7mm x1, mitrailleuse M1919A4 7,62mm x2
- Blindage: 63,5mm (glacis supérieur), 50,8-107,95mm (glacis inférieur), 38,1mm (flancs et arrière de caisse), 88,9mm (masque du canon), 63,5mm (tourelle)



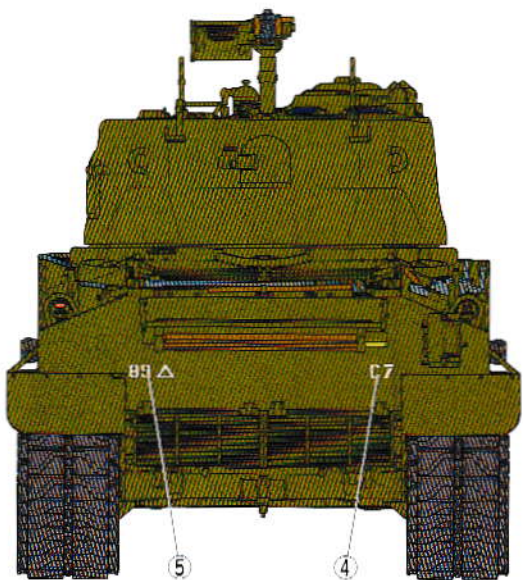
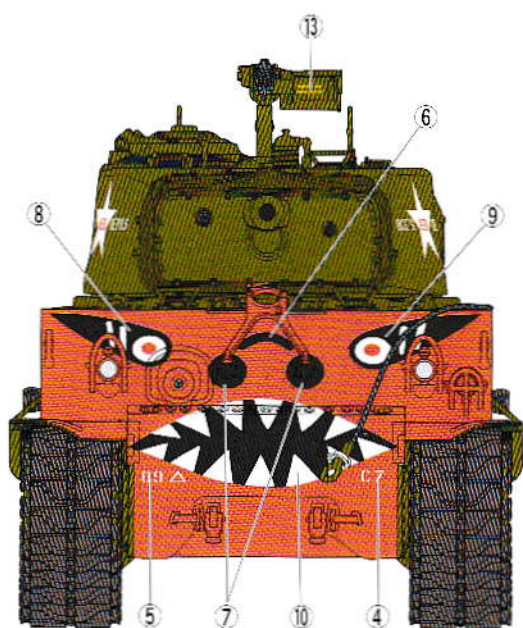
**A** 《アメリカ陸軍 第25歩兵師団 第89戦車大隊 C中隊 "Rice's Red Devils"》1951年 漢江 (ハンガン)流域  
 "Rice's Red Devils" C Company, 89th Tank Battalion, 25th Infantry Division, Han River basin, 1951



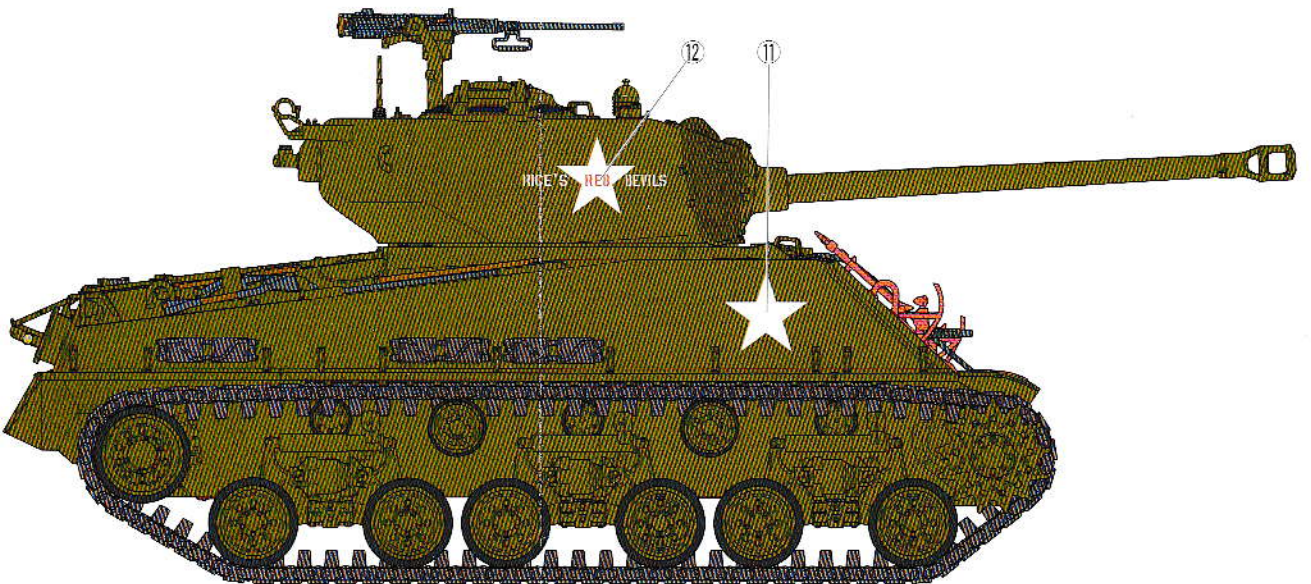
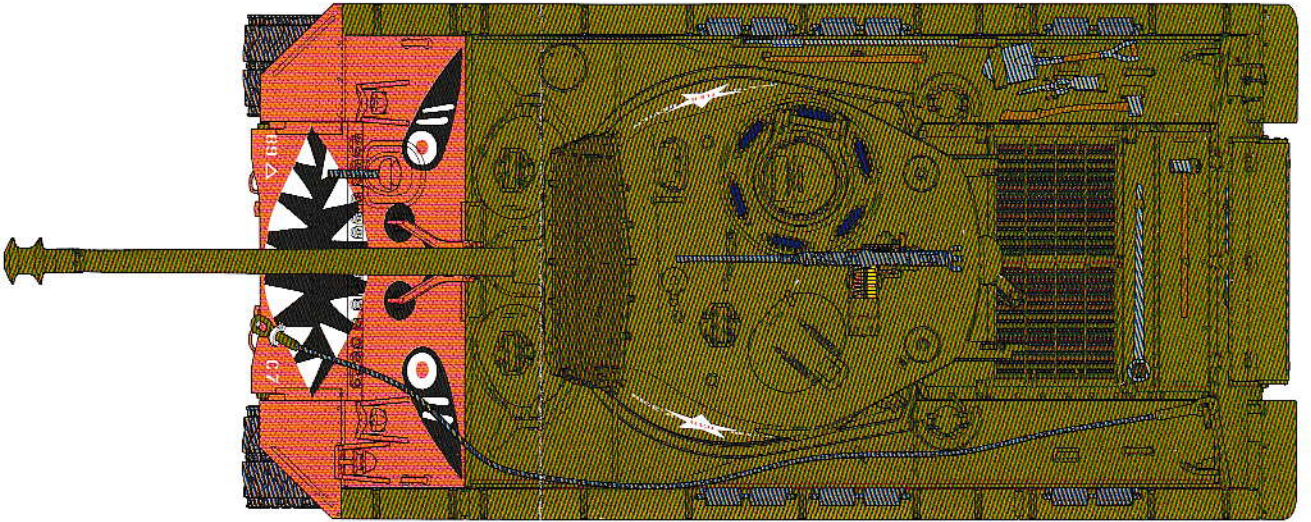
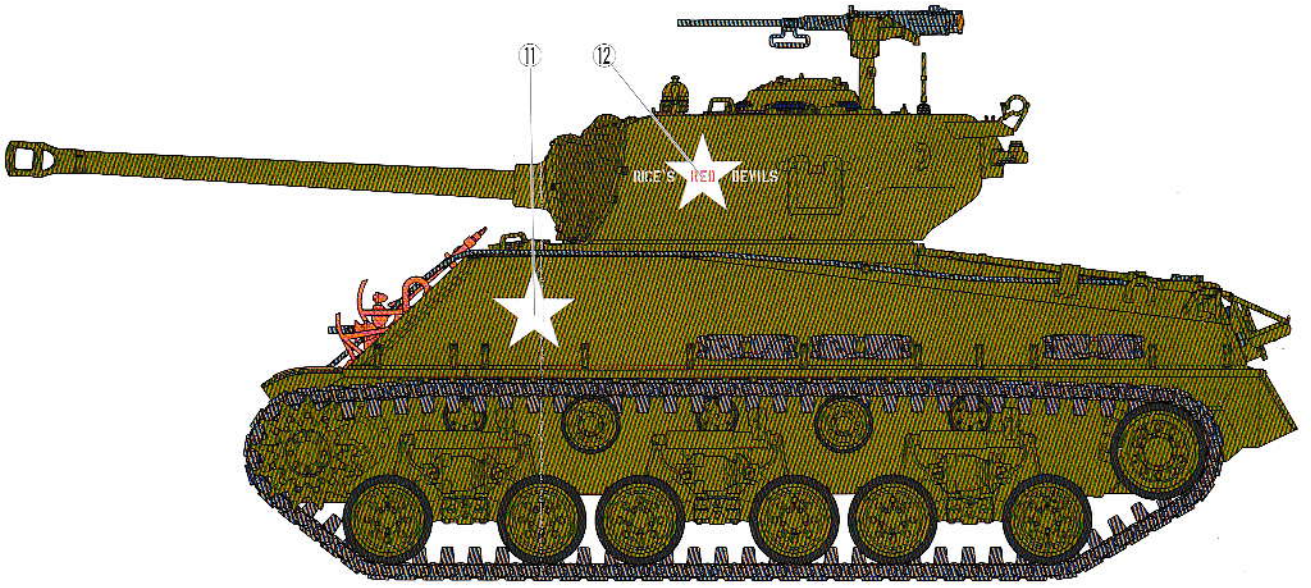
TS-26 オリーブドラブ2  
 Olive drab 2



XF-7 : 4 フラットレッド: 4  
 +XF-60 : 1 +ダークイエロー: 1  
 Flat red : 4  
 +Dark yellow : 1



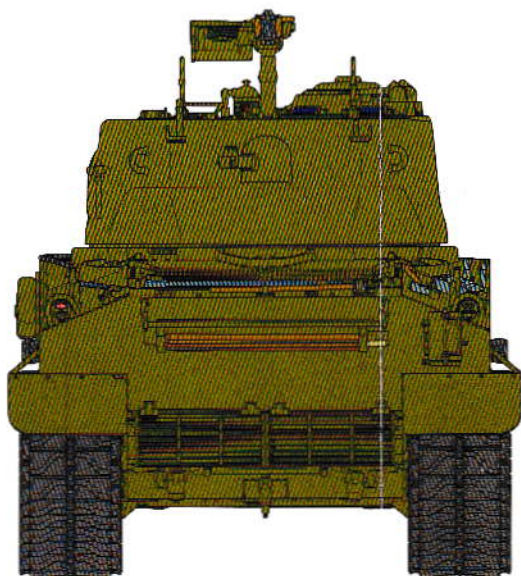
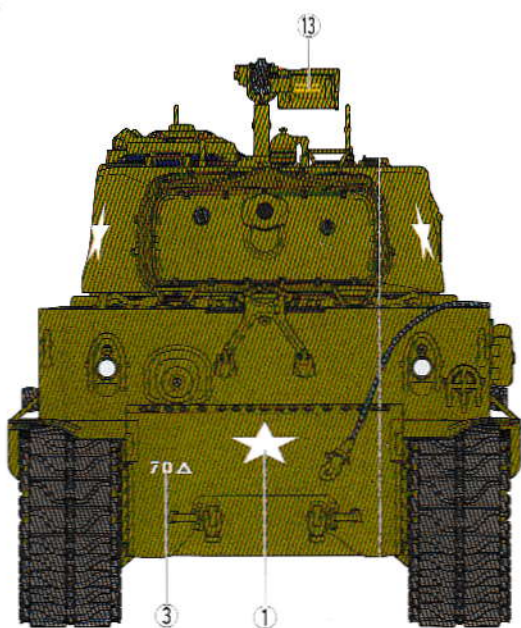


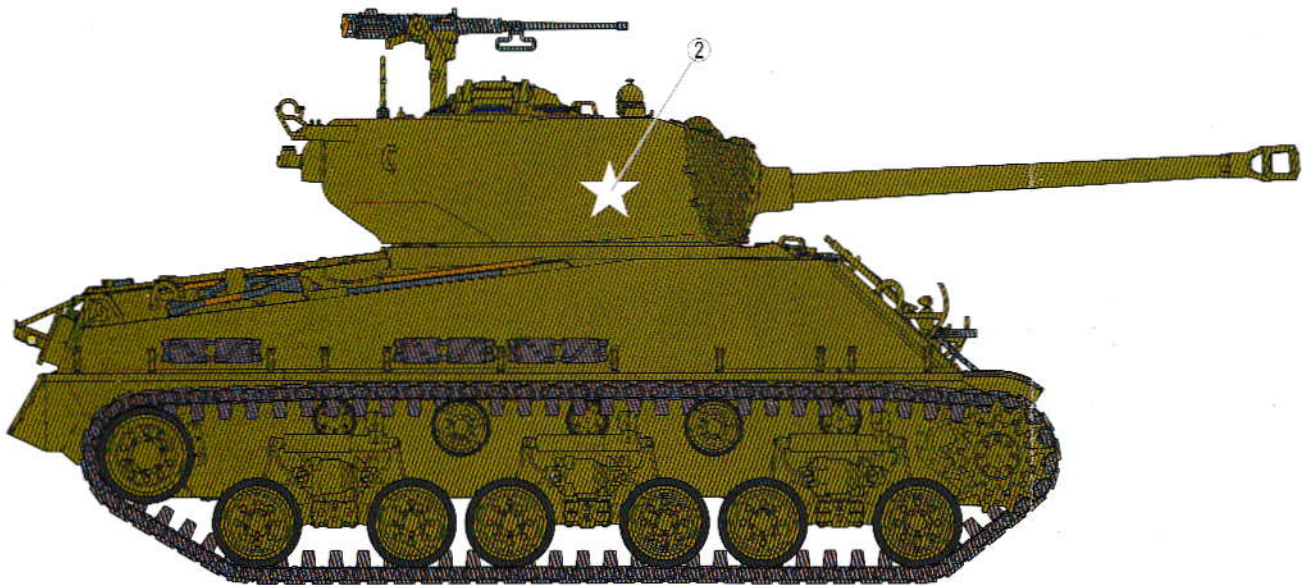
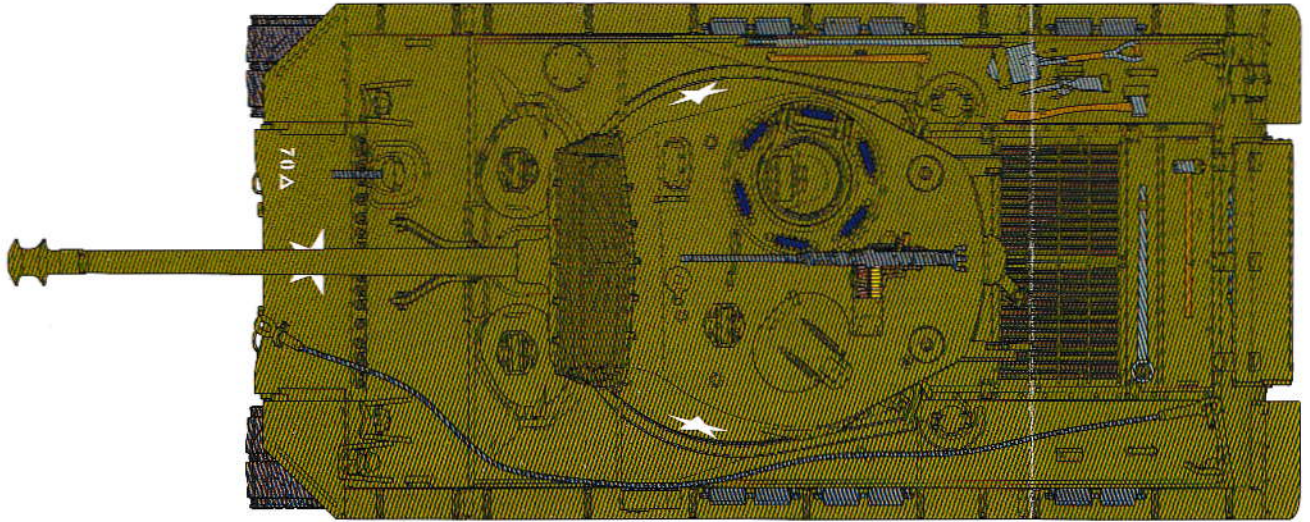
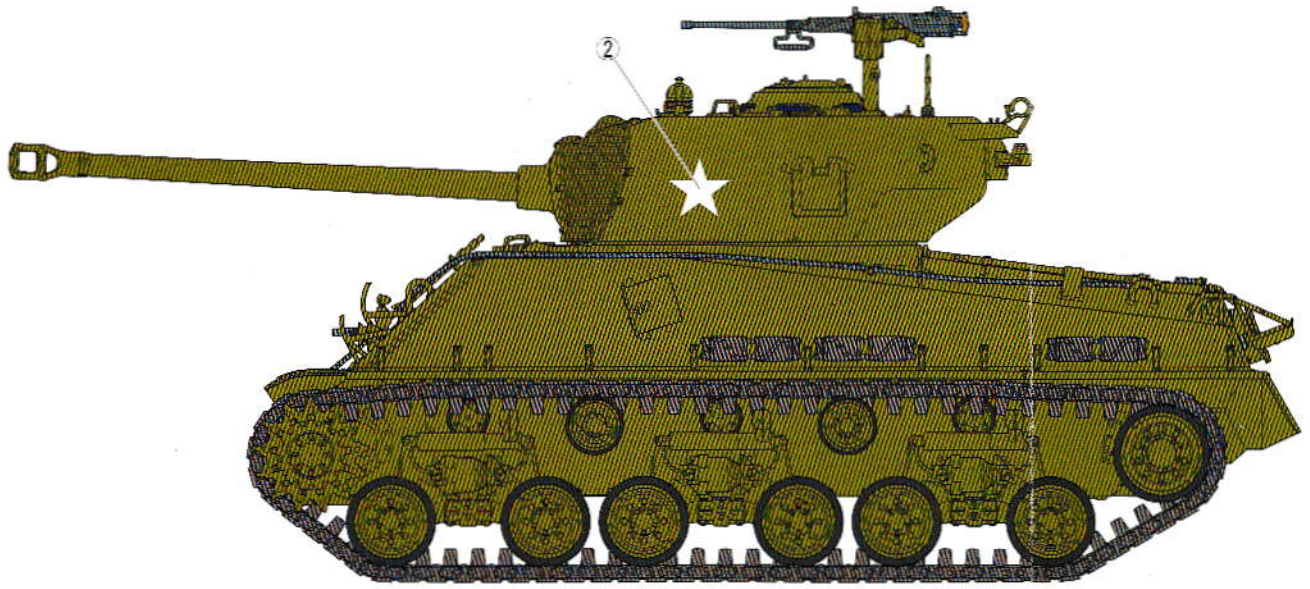






TS-28 オリーブドラブ2  
Olive drab 2







写真提供・考証協力:デビッド・ドイル  
Photographs and contributing research : David Doyle

